

令和3年度 自己点検・評価結果報告書【附属図書館】

推進責任者：田中図書館長

1.自己点検・評価の実施概要及び判定結果

自己点検の観点	自己点検・評価項目	実施方法	エビデンス	判定結果
図書館の利用環境の整備状況及び活用状況	学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えられていること。	紙媒体（印刷物）の蔵書数、電子情報資源の利用可能種類数、マイクロ資料の所蔵数、視聴覚資料の所蔵数について、確認する。	学術情報基盤実態調査（大学図書館編）	適切である
	資料の収集、整理及び提供を行うほか、情報の整理（処理）及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに、資料の提供に関し、他の大学の図書館等との協力を努めていること。	図書・雑誌受入数、サービス状況、図書館の公開、他機関との連携、電子図書館的機能、機関リポジトリについて、確認する。	学術情報基盤実態調査（大学図書館編）	適切である
	機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員が置かれていること	図書館・室の職員数について、確認する。	学術情報基盤実態調査（大学図書館編）	適切である
	大学の教育研究を促進できるような適当な規模の閲覧室、レファレンス・ルーム、整理室、書庫等を備えていること。閲覧室には、学修（学習）及び教員の教育研究のために十分な数の座席を備えるものとする。	施設・設備について、確認する。	学術情報基盤実態調査（大学図書館編）	適切である

* 新型コロナウイルス感染症対策により座席数の一時的な削減等を講じているが、適切である。

2.結果総括

【優れた点】

○新型コロナウイルス感染症対策下の様々な制限の中での図書館のサービス提供。

- ・ 附属図書館が保管している貴重な古文書群のコレクションについて、例年展示会を開催しているが、R2年度はオンライン貴重資料展として、HP上により開催。（①）
- ・ 感染拡大・減少に伴う開館時間の変更、検温システムの導入、消毒液の配置、飛沫防止のためのアクリル板等の設置、座席数の削減、座席のQRコードによる座席登録システムの導入等の実施。

この対策を実施し、休館期間を可能な限り短期間とし、学生への図書館サービスの提供に努めた。（②）

- ・ 自学自習に役立てる学外からのリモートアクセスにより利用可能な電子ブック・契約データベースの情報を集約し、積極的に周知。

一時的な無料公開（オープンアクセス）情報の提供（③）

○利用者サービス拡充

- ・ 学部学生への貸出冊数の増加・貸出期間の延長、教職員・院生への雑誌貸出開始等の正式サービス開始。（④）
- ・ 電子ジャーナルのバックファイル（Elsevier 社のChemistry およびBiochemistry 分野の186 タイトル、Annual Review 51 タイトル）を整備し、本学教員・学生が永続的に利用可能となり、学術研究基盤の充実を図った。
- ・ 医学系図書館内掲示の英語化。（⑤）

○図書資産管理の改善

- ・ 薬学部分館において、QRコード利用による蔵書点検の開始及び蔵書点検後に生じた不明図書の処理プロセスの確立。（⑥）
- ・ 図書資産とする図書の基準の明確化。（⑦）

【改善を要する点】